

論文（要旨）

パティシエにおける 職務特性理論と JD-R モデルの検証

-学習志向的モチベーションによる媒介効果と調整効果-

石田 翔梧

（経済学科 4 年 伊藤誠悟専門ゼミ第 3 部）

本研究では、パティシエ業界における働き方改革の課題に着目し、パティシエの働きがいの向上のための職務再設計や職務拡大の示唆を得ることを 1 つのねらいとした。そこで職務特性理論と JD-R モデルに基づき、バーンアウト（情緒的消耗感・脱人格化・個人的達成感）に関係する職務特性（職務自律性・タスク完結性・タスク重要性・タスク多様性・フィードバック）を明らかにし、同時に多側面ワークモチベーションと職務特性の関係を分析した。さらにそこで得られた結果から、パティシエにおける学習志向的モチベーション（以下：学習志向 M）の効果を明らかにすべく、追跡調査を行なった。

調査は全国の個人洋菓子店に勤務するパティシエを対象とし、WEB 形式の質問票調査を実施した結果 104 名の有効回答が得られた。重回帰分析の結果、5 つの職務特性から情緒的消耗感への有意な影響は確認されなかったが、職務自律性・タスク重要性・タスク多様性は脱人格化と個人的達成感に対して有意な影響を与えることが確認された。この結果から、職務自律性とタスク重要性はポジティブな心理状態を誘発させ、タスク多様性はネガティブな心理状態を誘発させることが明らかになった。また、タスク重要性は学習志向 M に正の影響を与え、フィードバックは競争志向 M・協力志向 M・達成志向 M に対して正の影響をもたらすことが確認された。

さらに上記の結果に基づき、タスク重要性と脱人格化・個人的達成感の関係における学習志向 M の媒介効果を調査した。その結果、タスク重要性と個人的達成感の間における学習志向 M の完全媒介効果が確認され、学習志向 M の必要性が示唆された。また職務特性理論に基づき、成長欲求の強度の代替変数として学習志向 M を設け、職務特性から個人的達成感への正の影響に対する学習志向 M の調整効果を測った。その結果フィードバックを除く 4 つの職務特性と学習志向 M の交互作用項がそれぞれ有意に正の影響を与えていることが明らかになったが、その交互作用効果は著しいものではなかった。

最後にこれらの分析結果から得られる考察を展開した。またその考察をもとにパティシエにおけるタスク重要性・タスク多様性・学習志向 M に着目した実務への示唆を提示し、本研究の結びとした。